

いまこそ 詩人よ 韓国17人新作詩集

# 마침내 시인이여

申庚林・李時英編

辛英尚訳

いまこそ 詩人よ 韓国17人新作詩集

# 마침내 시인이여

申庚林・李時英編

辛英尚訳

〈編 者〉

申 庚 林 (SHIN-KYONG LIM)

詩 人

詩集に『農舞』『鳥の嶺』があり

詩論集に『生の真実と詩的真実』がある

創作と批評社編集委員

李 時 英 (LEE-SHI YONG)

詩 人

詩集に『満月』がある

創作と批評社編集長

〈訳 者〉

辛 英 尚 (SHIN-YONG SANG)

文芸評論家

訳書に『燕よ、お前はなぜ来ないのだ!』(晩聲社)がある

本籍 慶尚南道陝川

いまこそ 詩人よ 〈韓国17人新作詩集〉

1984年6月10日 第1版第1刷印刷

定価 1500円

1984年7月1日 第1版第1刷発行

編 者 申 庚 林 ・ 李 時 英

訳 者 辛 英 尚

発行者 山 根 襄

発行所 株式会社 青 木 書 店

東京都千代田区神田神保町1-60

振替口座・東京 8-36582

電話・東京 (292) 0481 (代表)

郵便番号 101

© Shin-Yong Sang, 1984 東洋印刷・黒岩大光堂製本

Printed in Japan

ISBN4-250-84034-4

## はじめに

新しい年代に入って、はや5年目を迎える。

季刊『創作と批評』<sup>1</sup>が廃刊になり、発表誌面が急に減少するという状況において企画された、この新作詩集の第1巻(13人新作詩集『われわれのあこがれは』1981年<sup>2)</sup>)をだすとき、私たちはこのような選集が、われわれの時代の生存についてのひとつの証言となるよう期待しながら、新しい年代を迎え意欲的に編みだされはじめた、韓国詩の新しい流れを適切に受けいれようと決意した。私たちのこのような決意がどれほど実現されたかは、読者のみなさんが冷徹に評価してくださるものと信ずるが、弁明から先にいわせてもらえるならば、雑誌でもないひとつのちいさな選集が、ひとつの時代の詩の流れを主体的に主導していくということがいかに難しい事業であったかを率直に認めざるをえなかった。

しかし、このようなさまざまな難しさを感じながらも、私たちは第2巻(21人新作詩集『消えることのない松明で』1982年<sup>3)</sup>)につづいて、ここに第3巻をだすにあたって、例年になく新しい意欲で胸をふくらましている。久しぶりに私たちの前に姿を見せた高銀、趙泰一、金芝河たちの作品をはじめ、この詩集に収められている多くの詩人の作品が示しているように、現在この国

1 『創作と批評』 1966年1月、韓日条約締結後の状況のもとで創刊された季刊総合雑誌。内容的には文学が中心であったこの雑誌は、韓国民主化運動の思想的・理論的な砦であったといっても過言ではなく、多くの価値ある小説、詩、評論を世におくりだした。1980年の光州事態以後、全斗煥当局により発行停止処分をうけ、通巻36号をもって休刊。主な編集委員に白雲晴、廉武雄、金潤珠たちがある。なお、創作と批評社は今も健在で、有意義な出版事業をつづけている。

で詩をつくっているすべての詩人の望みでありまた編者たちの一致した願いは、真の意味での民族的現実の発見と、それにもとづく言葉をもって、分断された民族の和合と根源的解放に寄与する詩をつくってみたいということである。

さいわい、ここには、われわれの時代のこのような崇高な課題を解決しようとする、詩人たちの熱い決意と創造的な熱望がつよくこめられており、この選集をいっそう意味おかいものにしてきている。この選集がわれわれのこのシリーズ企画の意図をみたとすような、韓国詩の力づくも新しい前進の意義ある出発点になってくれるよう期待したい。

詩を寄せてくれた詩人のみなさんに感謝しながら、われわれの詩人たちが、時代とともに横たわるあの因習と挑戦と試練を跳び越え、真の自己解放、詩の解放を成しとげてくれるようすべての読者とともに切に願うものである。最後に、この詩集の表題は、高銀詩人の詩句（「車嶺山脈」）からとったものであることを明記しておく。

1984年1月

編 者

- 2 『われわれのあこがれは』 念のために、この詩集に作品をよせた詩人を列挙しておこう。——申庚林、崔夏林、金準泰、鄭喜成、梁性佑、金昌完、鄭浩承、金光圭、河鍾五、洪一善、金正煥、羅鍾米、鄭奎和、〈解説〉金鍾哲
- 3 『消えることのない松明で』 作品をよせた詩人は以下のとおり。——朴斗鎮、閔嘆、李盛夫、吳圭原、李雲龍、金相默、李聖善、李東洵、李太洙、李宗都、尹在杰、高静熙、河鍾五、文忠誠、金明秀、パク・モンク、郭在九、羅鍾米、鄭奎和、朴勝玉、キム・ヨンテ

いまこそ 詩人よ  
目 次

|                                                                      |    |
|----------------------------------------------------------------------|----|
| はじめに .....                                                           | I  |
| 高 銀 (コ・ウン) .....                                                     | 9  |
| 車嶺山脉 黄土 旗 道 <sup>フアウオン</sup> 花園 悟道頌                                  |    |
| 趙 泰 一 (チョ・テイル) .....                                                 | 21 |
| 組合せ <sup>フアセン</sup> 和順 赤壁歌 詩人の肩の向うには 夢<br>と法 なぞなぞ                    |    |
| 金 芝 河 (キム・ジハ) .....                                                  | 33 |
| 長詩 <sup>ムンニ</sup> 陀羅尼                                                |    |
| 梁 性 佑 (ヤン・ソンウ) .....                                                 | 45 |
| <sup>フチヨン</sup> 富川にて <sup>ヤンボルリ</sup> 陽筏里にて 梨泰院にて 鉄工所にて<br>子供たちの遊び場で |    |
| 鄭 喜 成 (チョン・ヒソソ) .....                                                | 53 |
| 道 私 <sup>オモヒ</sup> の母 私を生んで 冬に書いた短い手紙<br>愚痴 8・15のための太鼓の音             |    |
| 李 東 洵 (イ・ドンスン) .....                                                 | 63 |
| 長詩 風燈辞説                                                              |    |

許 炯 萬 (ホ・ヒョンマン) ..... 73

<sup>ホソン</sup> 許松氏 <sup>テジマン</sup> 大田駅 三災 泣き虫の息子に 野花一  
輪

金 栄 錫 (キム・ヨンソク) ..... 81

希望のために 空っぽの野原ひとつ 沈黙 わな  
証人

宋 基 元 (ソン・ギウォン) ..... 89

雪の降る夜に 松風 麦畑で 雁がなくとき 寒  
波

河 鐘 五 (ハ・ジョンオ) ..... 93

ある時の詩 <sup>カゼク</sup> 食口 1 食口 2 食口 3 食口 4

李 栄 鎮 (イ・ヨンジン) ..... 105

<sup>トンジン</sup> 東津江のほitori その狂おいしい日射しで 朝顔  
まぶしく汚れた秋のうた 9時 夜のニュースを  
聞いて <sup>イガク</sup> 北岳のうた

金 正 煥 (キム・ジョンファン) ..... 117

よい花 鉄道 (ふたつ) 原州の女 愛の歌 引  
っ越し

羅 海 哲 (ナ・ヘチェル) ..... 129

<sup>チソンドン</sup> 大成洞 1 火 木浦 ソウルへの道すがら 秋の  
うた 明け方の話

|                                    |     |
|------------------------------------|-----|
| キム・ヨンテク                            | 143 |
| 道庭は歪んでも…… お前の暮していた家跡<br>で 蟻津江13 秋に |     |
| キム・ヨンナク                            | 161 |
| 文化宣伝隊 蠅とり 洗濯番 朝顔 宋室姉さん             |     |
| 金 喜 洙 (キム・ヒイス)                     | 173 |
| 蛇苺のうた 竹細工師のうた 間縄取り かぼち<br>ゃ 新農夫歌   |     |
| 李 殷 鳳 (イ・ウンボン)                     | 187 |
| よい世の中 冬休み 雪 何だろうか 郷愁 唐<br>岩里3 サルビア |     |
| 訳者あとがき                             | 199 |



いまこそ 詩人よ

〈韓国17人新作詩集〉



高 銀

車嶺山脈

黃 土

旗

道

花 園

悟 道 頌

1933年 全羅北道群山市で生まれる

1958年 月刊『現代文学』に詩「春の夜  
のことば」その他が推薦されて創作  
活動をはじめる

1974年 第1回韓国文学作家賞授賞 詩  
集『夜明の道』（創作と批評社 1978  
年）など著書40余冊を刊行

住 所 京畿道安城郡孔道面馬井里

車嶺山脈<sup>1</sup>

遠くの山々をすきになるのはやめよう

遠くの山々には嘘が多い

詩人よ

もう遠くの山々をすきになるのはやめよう

この国の種畜<sup>しゅちく</sup>である詩人よ

も少し近くの稲束<sup>いなづか</sup>をつんだ田野に

大きな夕暮れのなかに

私たちに 防がねばならない災難がまた近づいている

今日までのながい汚辱で

愚かで喜んだものたちが

遠い山々になって暮れている

太白山脈<sup>2</sup>の五台山<sup>3</sup>で

雉岳<sup>4</sup>の白雲 瑞雲山<sup>5</sup>になって

天安<sup>6</sup>の鵲城山<sup>7</sup> 黒城山<sup>8</sup>になって暮れている

そして 荒れ野の青陽<sup>9</sup> 保寧<sup>10</sup>から長項製鍊所<sup>11</sup>まで

ひとつのながい歴史でつながる

山脈<sup>やまなみ</sup>よ お前としたことがなぜに詩人ひとりを生まないことが  
あろう

あらゆる嘘から脱け出しえないことがあろう

詩人よ

1 車嶺山脈 太白山脈の一部。五台山から分岐して西南にのびる。

2 太白山脈 韓半島中南部の楸可嶺地溝帯（16ページ脚注4参照）から江原道、慶尚南北道の東部を南北にのびる全長600キロの大山脈。

3 五台山 太白山脈中の山のひとつで五つの高峰があることから名づけられた。主峰は標高1,563メートル。

4 雉岳 江原道原州市東方から三つの郡にまたがる雉岳山のこと。太白山脈の地脈である雉岳山脈の主峰で標高1,288メートル。

遠くの山々をすきになるのはやめよう  
 六百里<sup>5</sup>の山脈へと連なる暗闇さえ  
 あのながくつづく暗闇の力さえ知っている  
 私たちに 災難がやってくる  
 私たちに 災難を賛美するときにやってくる  
 そのいかなる邪悪なものをも  
 聖なるものとあがめなければならない時が近づいている  
 詩人よ もう遠くの山々をすきになるのはやめよう  
 いくら子孫万代につながる山々が  
 この世でもっとも大きな誇りだとしても  
 流れる間 心をえぐる安城川<sup>6</sup>が  
 悲しいまでに篤実だとしても  
 私たちに また災難が近くにきている  
 夕日沈む牙山湾<sup>7</sup>も知っている  
 平沢<sup>8</sup>のやわらかな田野も知っている  
 災難のさなか お前にとって何が詩であろう  
 詩人よ 遠くの山から目をそらそう  
 いまこそ 詩人よ 決断しよう  
 お前に迫る焦土を拒否し 倒れることを  
 お前に迫るいまひとつの悪霊を倒し 立ちあがることを  
 若き詩人よ  
 この国の最後のサンサディア<sup>9</sup>詩人よ  
 夜にはどうしようもなく 燈りである詩人よ

5 瑞雲山 瑞雲は高銀の住む安城郡のなかのひとつの里(村)。

6 天安 忠清南道の北部に位置する市で、天原郡の郡庁所在地。

7 鶴城山 忠清南道天原郡に位置する標高494メートルの山。

8 黒城山 忠清南道天原郡にある標高519メートルの山。

9 青陽 忠清南道中央部の郡で、鉄、マンガン、重石などを産する鉾山がある。

10 保寧 忠清南道西部の郡のひとつ。

11 長項製鍊所 忠清南道舒川郡長項邑にある製鍊所。

ひとつひとつ厳然と燈りをともせ

そして 遠くの山々を私たちの胸のなかで消してしまおう

12 六百里 韓国の10里が日本の1里に相当する。以下本詩集では日本里に換算せず、韓国の里をそのまま表記する。

13 安城川 京畿道西部を南西に流れて黄海に注ぐ全長76キロの川。

14 牙山湾 忠清南道牙山郡・唐津郡と京畿道平沢郡の間にある湾。

15 平沢 京畿道南西部に位置する郡。

16 サンサディア うたの拍子をとる反復句。

黄 土<sup>1</sup>

私たちは有史以来  
 空よりも  
 黄土の上で真実でありました  
 それなのに私たちは 歴史を  
 それとは逆に記してきました  
 民衆とは仕えるべき人ではなく  
 毎日働く人なのです  
 手なれた鋤<sup>すき</sup>を大地に突き立てて眺めれば  
 峠を越えてのびる  
 果てしない黄土の道が 私たちの絶景なのです  
 その<sup>あた</sup>辺りで  
 言葉なく生きている  
 父の黄土の墓が 私たちの絶景なのです  
 私たちが食べる黄土のあるかぎり  
 柩<sup>ひつごし</sup>輿は行き  
 私たち誰もが埋葬される黄土のあるかぎり  
 スコップ一杯に黄土すくいあげて  
 アメリカよ シベリアよ  
 私たちは ここに真理があるのです

1 黄土 韓国の大地(農地)をこう呼び、民族性、民衆のバイタリティの象徴としてよく使われる。金芝河も処女詩集の題名を『黄土』とした。

## 旗

いくら暗くても  
 暗いと訴えるのはやめましょう  
 口をつぐんで  
 夜空の暗闇のなかへ  
 旗を揚げましょう

明日 北風寒雪にひらめく旗のもとに  
 私たちは立たなければなりません  
 ひらめくものなしに  
 どうしてそれが生だといえましょう

暗いと訴えるのはやめましょう  
 私たちは毅然と立たなければなりません  
 ただひとりひるがえる旗のもとに  
 私たちは私たちだけで立たなければなりません

むなしくも <sup>はこやなぎ</sup>白楊はいつまでも立っています  
 暗闇のなかへ  
 暗闇のなかへ  
 私たちも黙々と立って 旗を揚げましょう